

平成 30 年度

事業計画書

一般財団法人茨城県科学技術振興財団

目 次

I	基本方針	1
II	事業の概要	1
1	研究開発奨励事業	1
2	つくばサイエンス・アカデミー事業	3
3	つくば国際会議場管理運営等事業	4
4	科学技術振興事業	5

平成30年度事業計画について

平成30年度 一般財団法人茨城県科学技術振興財団事業計画

I 基本方針

科学の進歩と技術革新は、人類の様々な課題を克服する鍵であり、歴史の多くの場面で科学の進歩が技術革新を促進し、新しい産業や快適な生活を創出するなど、社会経済の発展に大きく貢献している。

茨城県には、世界的な研究拠点である筑波研究学園都市をはじめ、東海・大洗・那珂地区の原子力研究機関、日立地区、鹿島地区の先端産業など、広範多岐にわたる科学技術・産業技術が集積し、本県から発信される研究開発や技術革新の情報は世界的に注目されている。

このような中、本県における科学技術の基礎的・創造的な研究開発の推進及び研究体制の強化を促進し、県内の科学技術の振興に寄与することを目的として創設された当財団は、その設立の目的を達成するため、次の基本方針により活動するものとする。

(1) 研究開発奨励事業

研究開発を奨励するため、世界的に評価を受ける研究成果を収めた研究者、研究内容が実用化されるなどの成果を収めた研究者及び将来を嘱望される若手研究者を顕彰する。

(2) つくばサイエンス・アカデミー事業

「研究者相互の交流促進」・「知の触発」という設立理念に沿って科学技術の振興に寄与する。

(3) つくば国際会議場管理運営等事業

「つくばコンgresセンター」の代表団体として、国際会議等の誘致及び利用促進を図る。

(4) 科学技術振興事業

県や研究機関等と連携して多分野の研究者や技術者の交流を支援するとともに、科学技術の普及啓発及び技術支援等を実施する。

II 事業の概要

1 研究開発奨励事業

県内科学技術の振興及び産業の発展に寄与するとともに、本県の科学技術の水準を広く全国にPRするため、関彰商事株式会社、県及びつくば市の支援を受けて研究実績を挙げた研究者を顕彰する。

また、メディアやホームページなど、あらゆる機会を活用しながら全国に広がるよう一層の事業PRを実施し、優れた研究開発事業の創出促進を図る。さらに、平成26年度から実施している高校生による江崎玲於奈賞受賞者の研究所への見学を継続して実施し、高校生の科学への興味を促進する。

(1) 江崎玲於奈賞事業	
--------------	--

	ナノテクノロジー分野において顕著な研究業績を挙げた研究者を顕彰することにより、科学技術の振興、ひいては産業の活性化に寄与する。
--	---

	また、賞の存在や県が推進する「科学技術イノベーション立県いばらき」を、より一層、県内外にアピールする。
--	---

- | | |
|--------|--|
| ① 授賞対象 | 日本国内の研究機関においてナノサイエンスあるいはナノテクノロジーに関する研究に携わり、世界的に評価を受ける顕著な研究業績を挙げた研究者，原則1名 |
| ② 賞 等 | 本賞（賞状），副賞（1，000万円），賞牌 |
| ③ 主 催 | （一財）茨城県科学技術振興財団，つくばサイエンス・アカデミー |
| ④ 共 催 | 茨城県 |
| ⑤ 協 賛 | 関彰商事株式会社 |
| ⑥ 後 援 | 文部科学省，日本放送協会 |
| ⑦ 協 力 | つくば国際会議場 |

(2) つくば賞事業

茨城県内において、科学技術の研究に携わり、顕著な研究成果を挙げた研究者を顕彰することにより、本県の科学技術の振興に寄与する。

① 授賞対象

対象分野は自然科学分野とし、次のいずれかに該当する者。（1人又は1グループ）

- ・本県内において研究活動を行っている研究者（過去に研究活動を行った研究者及び複数の研究者のグループを含む。）であって、世界的評価を受ける優れた創造的研究・開発成果を上げた者。
- ・世界的評価を受ける特に優れた創造的研究・開発成果を上げた研究者であって、その内容を本県内で開催される国際学会において初めて発表した者。

② 賞 等 本賞，副賞（500万円），賞牌

③ 主 催 （一財）茨城県科学技術振興財団，つくばサイエンス・アカデミー

④ 共 催 茨城県，つくば市

⑤ 協 力 つくば国際会議場

(3) つくば奨励賞事業

茨城県内において優れた創造的研究・開発成果を挙げた者，又は、今後飛躍的な研究成果を期待できる若手研究者を顕彰することにより本県の科学技術の振興に寄与する。

① 授賞対象

対象分野は自然科学分野とし、次の各部門にそれぞれ該当する者。（部門ごとに1人又は1グループ）

・実用化研究部門

本県内において研究活動を行っている研究者（過去に研究活動を行った研究者及び複数の研究者のグループを含む。）であって、その研究成果が実用化される等、県内の科学技術の振興に寄与した者。

・若手研究者部門

本県内において研究活動を行っている若手研究者（40歳以下）であって、今後飛躍的な研究成果が期待できる者。

② 賞 等 本賞，副賞（100万円），賞牌

③ 主 催 （一財）茨城県科学技術振興財団，つくばサイエンス・アカデミー

④ 共 催 茨城県，つくば市

⑤ 協 力 つくば国際会議場

2 つくばサイエンス・アカデミー事業

つくば市の研究者を中心に組織されているつくばサイエンス・アカデミー（SAT）が、研究者の交流促進を図るため、また科学・技術に対する社会の関心を増進させるため、研究交流や科学技術啓発などを実施する。

(1) テクノロジー・ショーケース運営事業	<p>つくばの各研究機関等と連携して、研究者間の交流や研究成果を産業に活かすための企業との交流により、イノベーションを促進する。</p> <p>〔 日 程 :平成31年1~2月(予定) 会 場 :つくば国際会議場 協力機関 :筑波大学 〕</p>
(2) 研究・交流促進事業	<p>① SATフォーラム 会員やその家族、一般の参加も広く呼びかけ、最先端の研究や今話題の研究者を招いてフォーラムを開催する。</p> <p>〔 日程:平成30年7月3日(火) 講師:東京工業大学特任教授 大隅 良典 氏 会場:つくば国際会議場 〕</p> <p>② SATつくばスタイル交流会 広く会員以外の方にも参加を募り、講演会や音楽鑑賞会を開催して、SATの周知と市民との交流を促進する。</p> <p>〔 日程:平成30年11月予定 講師:未定 会場:つくば国際会議場 〕</p> <p>③ 賛助会員交流会 技術開発に熱心に取り組んでいる賛助会員企業の事業紹介、つくばの研究者の研究紹介により、それぞれのニーズ・シーズを確認し、新しい「知の触発」に繋げる。さらに、研究者と企業の相互の橋渡しなど、マッチングを支援することで、新たな研究開発や産業利用の創出につなげる。</p> <p>④ 研究情報交換会 テーマを決めた少人数での交流会。2、3人の研究者が、その回のテーマに関連した研究状況を報告、これをもとに異分野研究者と忌憚のない意見交換を行い、新しい発想につなげる。</p> <p>⑤ SATサイエンスカフェ 研究者や一般市民を対象に特定のテーマで気軽に意見交換できるアカデミーならではのカフェを開催し、研究者との交流を通じて一般市民に科学の楽しさを知ってもらおうとともに、SATの認知度を高める。</p> <p>⑥ 「つくば科学・技術産業イニシアティブ」の共催 異分野交流事業の強化・拡充を図るため、科学・産業イニシアティブ主催の異分野交流事業「つくば科学・技術産業イニシアティブ」について、アカデミーとの共催事業として開催する。</p> <p>⑦ 賛助会員訪問 賛助会員の事業所を訪問し、事業内容や技術開発の内容について聞き取りしたものをホームページ、会報などを通じて紹介していく。</p>
(3) 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会報の発行（年2回） ・ ホームページの運営（ http://www.science-academy.jp/ ） ・ 「賛助会員訪問記」の掲載 ・ 「事務局だより」（アカデミー通信）の発行

3 つくば国際会議場管理運営等事業

つくば国際会議場の指定管理者であるつくばコンgresセンターの代表団体として、当会議場の管理運営を行う。（指定期間 H28 年度～H32 年度）

(1) 貸館事業	<p>① 会議の誘致活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G 7 科学技術大臣会合の開催施設としての実績を活かした大規模な国際会議等の誘致 ・ 筑波大学や研究機関に対してのポスティングやセミナー参加と都内の学会協会へのセールスによる国内・国際会議の誘致 ・ 主催団体やエージェントに対するアフターコンベンションを含めた積極的な P R 活動 ・ 国・県関係機関への誘致活動 ・ 隣接ホテル（オークラフロンティアホテルつくば）とのコラボ商品の造成による新たな販路拡大 <p>② 催事の円滑な運営協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な利用形態（会議、展示会、イベント、研修等）への対応 ・ 積極的なレイアウト等の提案 <p>③ 施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物・設備の安全確保及び適正な日常保守点検，衛生環境整備の徹底 ・ 研修等による接客サービスの向上 <p>※平成 30 年度は第 17 回世界湖沼会議が開催（10 月 15 日～10 月 19 日） 会議の成功に向けてスムーズな運営へ協力するとともに，厳重な警備の徹底を行う。</p> <p>※参考 平成 30 年度に開催が決定している大規模催事（日程は準備期間含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際情報オリンピック（2018 年 8 月 全館貸切 8 日間） ・ 第 17 回世界湖沼会議（2018 年 10 月 全館貸切 7 日間）（再掲）
(2) 自主事業等	<p>教育プログラムの開催等</p> <p>① サイエンスキャスティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日：平成 30 年 8 月 ・ 場 所：つくば国際会議場 ・ 参加対象者：中・高校生 ・ 内 容：つくば市内の研究所を訪問し，講義や実験，体験を記録する。各メンバーと討議後，プレゼンテーション資料を作成し全体の前で発表する。 <p>② つくば Science Edge</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日：平成 31 年 3 月 ・ 場 所：つくば国際会議場 ・ 参加対象者：中・高校生 ・ 内 容：学生と研究者との貴重な交流の機会である。科学技術に関する研究をしている，あるいは研究しようとしている中高生が，科学にまつわるアイデアを，研究者の前で発表する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) オーラルプレゼンテーション（日本語又は英語）※書類審査で選抜された 8 チームが参加 (2) サテライトプレゼンテーション（日本語又は英語）※上記選抜審査に漏れた次点の 10 チームが参加 (3) サイエンスアイデアや普段の研究活動の日本語ポスター発表 (4) 英語によるポスター発表（10 分程度 ※Intel ISEF の発表方式に準ずる） (5) ワークショップ (6) アイデアコンテスト，ポスター発表，ワークショップの見学

4 科学技術振興事業

県等からの受託により、科学技術振興に係る普及啓発及び技術支援等を実施し、県内科学技術の振興及び理解促進を図る。

(1) つくばサイエンスツアー推進事業

つくばサイエンスツアー実行委員会からの受託により、筑波研究学園都市に集積している研究機関等を貴重な地域資源として捉え、施設見学モデルコースの設定、見学相談等に対する一元的な情報提供等を行い、県内外からの見学・学習の場として活用することで、科学技術の普及啓発を図る。

○活動内容

- ①研究機関等の見学案内
- ②広報事業の実施
 - ・パンフレット、ガイドブック等の作成、配布
 - ・ホームページによる情報発信
 - ・旅行会社及び学校等教育関係機関へのPR活動
 - ・各種イベント等への出展
 - ・県、つくば市の誘客事業への協力等
- ③サイエンスツアー特別イベントの企画、実施
- ④つくばサイエンスツアーバスの運行支援
- ⑤地元観光業関係機関等との連携
- ⑥海外来訪者受入体制の向上に向けた取り組み
 - ・海外からの来訪に備えたHPやSNSによる情報発信等の充実
 - ・英語によるサイエンスツアーバス スタッフガイド同行コースの定期的な実施
 - ・国際旅行取扱業者に対するモニターツアーの実施

(2) 茨城県次世代エネルギーパーク推進事業

茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会からの受託により、県内のエネルギー関連施設の紹介や見学モデルコースの設定などの情報提供を行う次世代エネルギーパークインフォメーションセンターを運営し、エネルギー教育機会の創出及び施設見学者の受入れ拡大を図ることで、再生可能エネルギーの理解増進・普及促進に努める。

○活動内容

- ①次世代エネルギー施設の見学案内
- ②広報活動の実施
 - ・パンフレット、ガイドブック等の作成、配布
 - ・ホームページによる情報発信
 - ・旅行会社及び学校等教育関係機関へのPR活動
 - ・各種イベント等への出展等
- ③モニターツアーの実施
 - 子供見学会、教育関係団体対象見学会等
- ④協議会への加入促進（見学可能施設の拡充）

(3) 茨城県中性子ビームラインの利用促進・技術支援業務

茨城県中性子ビームライン（県BL）の産業利用を推進していくために、潜在的ユーザーへ向けた利用促進業務及び、専門的な知見を通じ、利活用方法の検討から申請書補助まで幅広い技術支援を行うことにより、ユーザー拡大を目指す。

○活動内容

①技術相談・支援

- ・材料構造解析装置，生命物質構造解析装置それぞれに専門家を配置し，利用を検討しているユーザーに対して技術的相談を行うとともに，県BLに対する支援を実施

②交流会・情報交換会等の開催

- ・県中性子利用促進研究会や関連セミナー等の開催

③学会へのブース出展

- ・県BLの利活用が期待される分野と関連する学会へのブース出展

④企業訪問

- ・企業からの要望に応じて訪問し，装置の概要及び成果等について説明

(4) 科学技術に関する研究者との交流機会の創出等

①サイエンス・カフェ

科学の社会的な理解を深めるコミュニケーションの場として，科学者・研究者と一般の人々が気軽に科学の話題について語り合える「サイエンス・カフェ」を開催する。

②教育プログラムの開催等（再掲）

- ・中高生がつくば市内の研究所を訪問し，講義や実験，体験を記録し，各メンバーと討議後，プレゼンテーション資料を作成して全体の前で発表する「サイエンスキャスティング」を実施する。
- ・科学技術に関する研究をしている，あるいは研究しようとしている中高生が，科学にまつわるアイデアを研究者の前で発表する「つくば Science Edge」を実施する。